

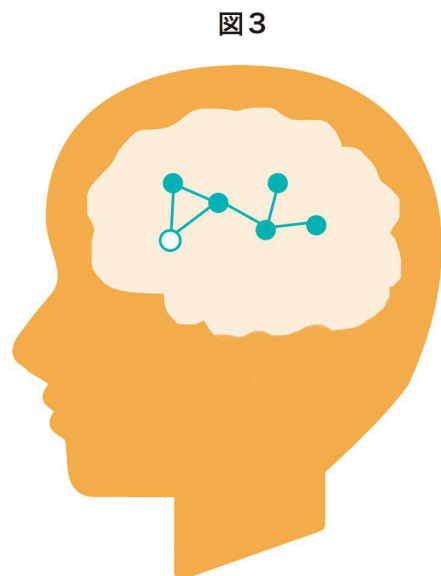
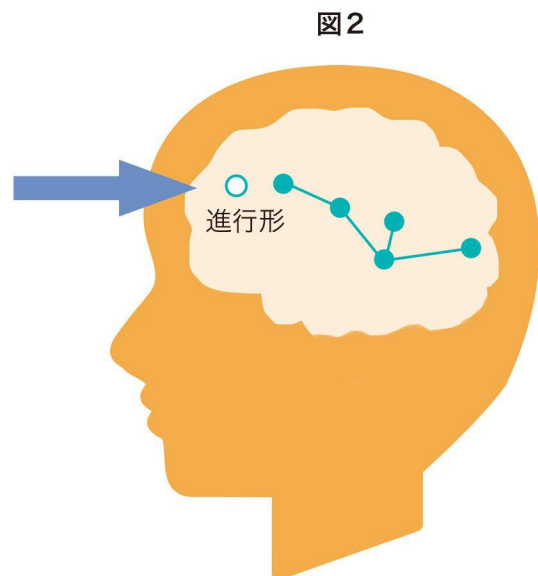
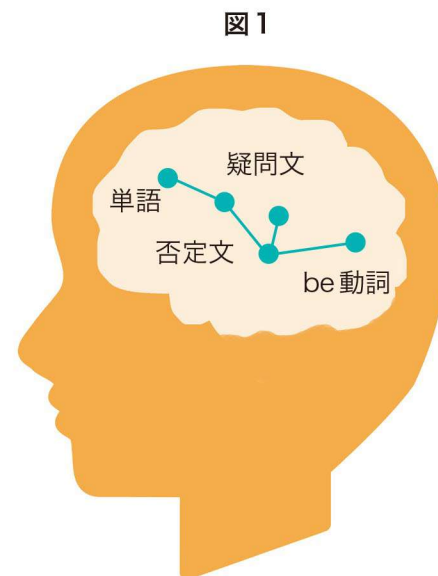
# 1 「理解する」とは何か

**現** 代文という教科は、本文を読んで設問に答えるという単純な作業の繰り返しになります。「はじめに」でも記しましたが、原則的に「本文から探して」考えるだけです。受験生の皆さんの「意見」も「思い込み」も必要ありません。むしろ「有害」なものです。ですから「正解しよう」と思えば、まずは本文が「読めなければ」なりません。では、「読める」とはいったいどういうことなのでしょう？ 理解すると言い換えても構いませんが、「理解」のためには、どのような「頭の使い方」が必要なのでしょう？



## 1 理解のための条件

下のイラストを見てください。「何か新しいものを学ぼう」とする時、人間の頭脳内部ではどのようなことが起こるのでしょうか。



中学校一年生で学習する「現在進行形」を思い出してください。一学期の中頃に登場しますが、「登場する」「以前の段階で」「単語」「be動詞」「一般動詞」などの学習が進み、さらに「疑問文と否定文」の作り方を学習します。それらが、「一応習得できている」状態を示したのが図1の脳内の状態です。一つ一つの小さな円が「断片的知識」に該当します。これらが「有機的に連結して、一定の体系・システムを構築している」ことによって、理解が成り立つわけです。

ここに、「現在進行形」という新しい知識が外部から加わります。それが図2の状態です。新しく「侵入」してきた「知識」が、それまでの「従来からあった知識の体系」に組み込まれると、図3の状態になり、「一応の理解・習得」が完結するわけです。「現在進行形の文章は、be動詞タイプだから、疑問文と否定文の作り方は簡単だ」といった具合に、本人なりに納得できるわけです。

図1から図3を見て、何か気付かないでしょうか？

カンのよい皆さんなら、何か新しいものを「習得」できるためには、最低でも二つの条件が必要であることがご理解いただけると思います。

ポイント 「読めるための条件」

- ① 頭の内部に「受け皿」に相当する「知識の体系」ができてあがっていること。
- ② 外部から新たに加わる「知識」が単純であればあるほど、理解が容易であること。

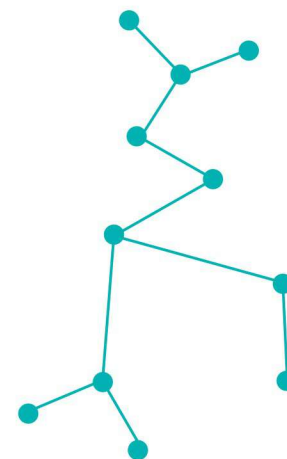
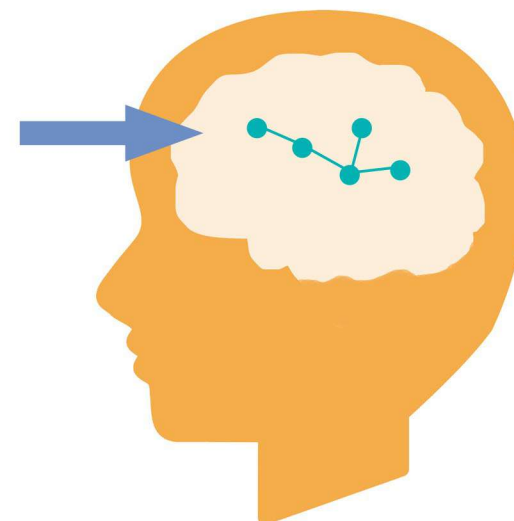
現代文の学習で「必修基礎教養」や「必修単語の学習」が不可欠であることは、以上の理由からも明白なのです。逆に言えば「頭の内部が幼い」皆さんは、「受け皿」となる要素が少ないので、学習上でかなりの苦勞を伴うことになるわけです。ただ、本テキストでは、比較的読みやすい文章から授業に入りますので、ご安心を。

2 理解を妨げるもの

今度は、大学入試用の現代文を「読む」ことを想定してみましよう。次の図4をご覧ください。脳内の「受け皿」となる「知識網」はさして増殖してもいないのに、外部から加わる「長文」という名の侵入者は「複雑この上ない」構成をしています。これが「理解できない」状態に相当します。しかし、よく見れば、

ここでも「理解を妨げる要因」が最低二つは発見できることに気付かないでしょうか？

図4



複雑な長文

ポイント 理解を妨げる要因

- ① 外部から加わる「文章」という名の侵入者が「複雑すぎる」こと。
- ② 外部からの情報の「容量」が大きすぎて、そのままでは「脳内に収まり切れない」こと。

最初の①のポイントである「文章が複雑すぎる」点に関しては、皆さんが心配する必要はありません。そのような複雑な文章を「消化吸収しやすくするため」にこそ、我々講師が存在しているのですから。問題は②です。パソコンなら、メモリーを増設すれば「容量」は大きくなります。しかし、人間の頭脳についてそのようなことは可能なのでしょうか？ 実はこの点に関しては「可能である」「とも言えるし」「不可能である」とも答えられるのです。受験生の皆さんの脳内の「容量」を拡大することは「不可欠」な作業なのですが、こればかりは、我々がどんなに授業で頑張っても、はじまりません。「**脳内を拡大しようとする受験生諸君の自覚的な努力**」がなくては達成できないのです。

メモ欄

